

Comprehensive Assessment System for Building Environmental Efficiency



評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2014v1.2

使用評価ソフト: CASBEE札幌2014 (ver.1.3)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	中の島小学校改築	階数	地上4F
建設地	札幌市豊平区甲の島2条1丁目1-4、1-17、5-2	構造	RC造
用途地域	第2種中高層住居専用地域、準住居地域	平均居住人員	550 人
気候区分	2地域	年間使用時間	3,100 時間/年
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年8月 予定	評価の実施日	2016年7月12日
敷地面積	13,284 m ²	作成者	濱口芳郎、笠井宏紀、廣谷修
建築面積	4,436 m ²	確認日	2016年7月14日
延床面積	9,444 m ²	確認者	佐藤教明



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 2.4

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	77%
③上記+②以外の	73%
④上記+	73%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.6

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.5

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.9

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.9

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.4

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.6

3 設計上の配慮事項

総合

- ・屋内広場(屋内運動場)を中心に囲む「回遊型」の校舎
- ・校舎・体育館を1棟としてコンパクトにまとめることで外装面積を縮減、外断熱工法の採用などにより暖かい体育館をつくります
- ・行き止りのない動線、屋内広場や吹抜を介した「見る」「見られる」の関係をつくる構成で、多角的に「まなびのシーン」を垣間見せ、子供の好奇心・探求心を引き出す校舎をつくります

A 省エネルギー

- ・アリーナ上部には、ハイサイドライトを設け、自然換気ルートを確認し、夏季のナイトバージ、積雪時も含めた積極的な自然採光の確保を行う
- ・屋根には太陽光パネルを設置し、自然エネルギーの有効利用を図るとともに環境学習の教材として活用
- ・災害時の避難所となる1階中央の屋内広場は、屋外との温熱環境上のバッファゾーンとなる諸室に囲まれた構成により断熱性を高め、居住環境を維持
- ・LED照明やHf照明器具の採用等により消費電力の削減を図る

B 省資源等

- ・可能な限りモジュール設計を行い、使用材料の効率化を図り、建設時の端材・廃材を縮減
- ・外装材の外断熱複合パネルは道内で発生した循環資源を利用し、道内で製造されたリサイクル製品を採用

C 緑化

- ・敷地背後の精進川、豊中公園の緑と調和する景観デザイン
- ・敷地内の既存樹木は可能な限り伐採せずに保全し、長く地域に親しまれている景観の継承を図る
- ・精進川や豊中公園の緑地と呼应するように、通りに面する部分を緑化することにより、緑の景観を形成し潤いのあるまちなみをつくる

D 雪処理

- ・除雪ルートに配慮した位置に除雪機倉庫を設置
- ・敷地内の児童の登下校ルートはゆとりのある幅員とし除雪のしやすさに配慮
- ・職員が日常利用する敷地内通路には雁木状の空間を設け、移動のしやすさに配慮

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される